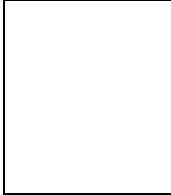


▽ 保良 昌徳 教授 YASURA, Syoutoku



学 科:人間福祉学科

担当科目:平成 22 年度 国外研修中・・・研究業績編集中

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

<p>①東北福祉大学大学院修士課程社会福祉学専攻科 卒業</p> <p>②社会学修士</p> <p>③日本社会福祉学界</p> <p>④</p>
--

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
<p>1.教育活動・方法の実践例</p> <p>1)社会福祉原論</p>	2009年4月～7月	<p>社会福祉の基幹科目。国家試験科目。</p> <p>2009年度通年科目の前期を担当、講義形式、専門選択必修科目、社会福祉士基礎科目、4単位、149名登録、毎週一回開講)。講義の中での工夫として、①独自の資料を作成、②可能な限り図式化した(例・措置制度の理解等)。また③ゲーム感覚(例:社会福祉基本六法の領域と利用法等)を理解させた。④また自分が特別養護老人ホームでの経験や海外での施設経験から、現場の様子や事例を豊富に取り入れた(学生には大変好評で反省文などでも評価の声が高かった)。また、⑤講義の中では、基本的な部分を理解させた上で、可能な限り原理的な問いかけを行い、問題意識を高め、知的な関心を高めるよう工夫した。</p>
<p>2)現代社会と福祉</p>	2011年4月～7月	<p>上記科目の名称変更後の科目(2010年度は海外研修のため担当せず、11年度に通年4単位科目の前半を担当。登録者128名)。上記社会福祉原論の工夫に、海外の施設の状況を多く取り入れ学生の理解を促した。</p>

3)老人福祉論	2009年4月～7月	<p>社会福祉の基幹科目。国家試験科目。</p> <p>2009年度通年科目の前期を担当、講義形式、専門選択必修科目、社会福祉士基礎科目、4単位、149名登録、毎週一回開講)。上記の社会福祉原論と同様、①テキストの他に独自の資料を配布、②図式化、③早覚えゲーム、④原理的な問いかけ、⑤豊富な事例を取り入れた。</p>
4)高齢者に対する支援と介護保険制度	2011年4月～7月	<p>上記科目(老人福祉論)の名称変更後の科目(2010年度は海外研修のため担当なし。11年度に通年4単位科目の前半を担当。登録者116名)。上記(老人福祉論)の工夫に加え、海外の施設での事例を多く取り入れ学生の理解を促した。②特に原理的な問いかけをして、対話的・双方向的な講義になるように努めた。</p>
3)社会福祉援助技術演習	2009年4月～2010年1月	<p>社会福祉専攻の28年次学生対象の専門ゼミ(通年8単位、演習形式、選択必修科目、21名登録、毎週2コマ開講)。講義の中での工夫として、①一年を大きく、前期は社会制度、後期は援助技術の理解に力をいれた。②4つのグループに分け、協同で資料作成を行い、学生の関心や自主的な参加を促した。③現場体験を重視、学生にボランティア体験を義務付けた。④大学のバスを利用し社会福祉施設を回るバスツアーを企画、実際の訪問も含め20前後の施設に触れた。(資料は学生が分担、案内も施設ごとに交代で担当した)⑤クラスでは、常に討論形式を用いて、学生に問題意識や気づきを促すように努めた。⑥年度はじめと夏季休暇中に一泊合宿を行い、学生との交流を深めると同時に、討論形式を用いて意欲・理解を促した。</p> <p>また市から、認知症予防事業(10月頃から週一回の午前中の10週間、ミニデイ形式)を市からの委託を受け、学生をそれに参加させることによって、高齢者との交流やレク等の運営などを知る機会を設けている。</p>
4)相談援助演習	2011年4月～2012年1月	<p>上記科目(社会福祉援助技術演習)の名称変更後の資格科目に移行。2010年度は海外研修のため担当なし。通年10単位、登録者20名、演習形式)上記演習の工夫に加え、後期に10日以上施設体験を義務化した。</p>

5)卒業論文演習	2011年4月～2012年1月	<p>専門必修科目、4年次対象、4単位通年科目、登録者17名。</p> <p>基本的には卒論の作成が目的であるが、特に、①学生個々が社会問題に積極的に取り組み、資料収集や分析の方法を理解し、一つの学問的知見として公開する能力を育てることを目的としている。指導では、②学生ごとに具体的な作業を指示しながら、進め、学生の能力やペースに合わせて指導している。③テーマによっては机上の資料分析だけでなく、現場からの第一次資料の収集作成を試みるよう指導している。④学年の最後には発表会を企画し、成果の発表と学会の発表の体験させている。</p>
6)海外社会福祉演習	2009年9月2日～9月11日	<p>専門選択科目、2単位、集中形式。</p> <p>毎年アジア・北欧・アメリカのいずれかを担当（2009年度は登録者4人を引率しベトナムのハノイ市とホーチミン市の福祉施設等を訪問。旅費は学生の自己負担で実施）</p> <p>講義の目的は、学生に国際的な視野と国際問題への関心や取り組みを促すことである。</p> <p>主な工夫点は、①旅のすべての行程を学生が作成させ、海外旅行を具体的な方法や注意点等を理解させる。</p> <p>②事前学習を持ち、訪問国の歴史・文化・福祉事情について理解する。③各自の課題を設定し、それぞれの視点での取り組みを促す。④可能な限り、自力で情報収集を行い、コミュニケーション力をつける。⑤現地では施設訪問やホームステイを取り入れ現地の人に直接触れるなどの体験型の取り組みを取り入れる。⑥現地の施設訪問の際は、沖縄の伝統や文化を紹介することを義務付け、自国の文化への再認識を促している。</p> <p>⑦帰国後は、積極的に報告会や報告書を作成し研修の成果を最大限認識できるように指導している。</p>
7)論文指導及び審査	2009年4月～2010年1月	<p>大学院人間福祉専攻社会福祉領域での修士論文の指導及び審査（登録者1名、審査1名）受講生が社会人で、時間外の相談指導が多くあった。工夫としては、①受講生が自ら資料を作成し、時間を取った発表・討論の形式が主となった。</p>

<p><b>2. 作成した教材等</b></p> <p>1)社会福祉原論</p> <p>2)老人福祉論</p>	<p>2009年4月～7月</p> <p>2009年4月～7月</p>	<p>国家試験の標準とされるテキストの内容は、浅く広いものとなっていることから、講義において、特に歴史について講義する場合等は、補足資料として詳細な年表等を資料として配布している。また制度の理解においては、図式を作成して提示しながら講義している。(これまでも補足資料の配布は続けてきた。また2011年度の科目「現代社会と福祉」でも同じ方法を取っている)</p> <p>上記科目と同様に、補足資料を作成して、学生の理解を深めるように努めている。(2011年度の「高齢者の支援と介護福祉」でも同様である。</p>
<p><b>3. 学生の支援活動</b></p> <p>1)学習支援 補習授業</p> <p>大学祭</p> <p>受託授業</p> <p>2)障害のある学生への生活 支援</p>	<p>これまで毎年</p> <p>これまで毎年</p> <p>2006年～2011年10 (2010年度を除く)</p> <p>2006～2009年度</p>	<p>演習系の科目については、学生の自主的な活動の比重が大きいため、作業の進捗状況等を確認が必要であるために、常に学生と連絡を取り、必要に応じて、研究室や研究室、あるいは現場での指導に努めている。</p> <p>大学祭で日頃の成果を発表するよう促している。(2009年度は、演習のクラスが協力し沖縄県内の施設の分布状況を地図に表す一方で、世界の人権侵害を表す写真展を開催した。</p> <p>宜野湾市介護長寿課との連携し、市内2ヶ所で認知症予防の学習教室を10回開催(ミニデイの方式で)、ゼミの学生が活動に参加する機会をつくった。学生は、自分たちに工夫で高齢者との交流や活動に参加する機会を得て、現場体験が得ている。</p> <p>実習指導室(現在の「福祉・ボランティア支援室」の責任者として、9号館への移転を機に、指導室に障害者支援機能とボランティア支援機能を持たせた。</p> <p>特に、①実習指導室内に交流の場を儲け、②障害のある学生やボランティアを考える学生の交流の場を設置した。③同時に、車イスの学生への移動やトイレ介助等の支援を整備した。④聴覚障害を有する学生への支援体制として、ボランティアサークル[キコラボ]を編成し、支援体制を充実させた。</p>

3)サークル支援	2006～2009 年度	ボランティアサークル{キコラボ}を立ち上げ、支援体制を充実させた。
<b>4. 学外での教育活動</b>		
1)沖縄キリスト教短期大学	1998 年 4 月 ～2003 年 3 月	老人福祉論(後期、2 単位、講義形式、50 名) 老人福祉の歴史、法律、制度等について講義し、問答方式で特に高齢者処遇のあり方等について討論形式で問題点を明らかにした。
2)琉球大学医学部	1998 年 4 月 ～2006 年 3 月	保健福祉政策論(後期、2 単位、講義形式、100 名)福祉・保健に関わらう歴史、政策等について講義、問答方式で、特に福祉現場における問題点について明らかにした。
3)沖縄県立看護大学非常勤	1999 年 4 月 ～2009 年 3 月	社会福祉論(後期、2 単位、80 名) 社会福祉の歴史・理論・制度を中心に講義し、質問形式をとって、福祉の原理や根本問題などを考えさせた。(学生から新しい問題意識が生まれたなどの評価を得た)
4)北部看護学校	2002 年 4 月 ～2005 年 3 月	社会福祉論(後期、2 単位、80 名) 社会福祉の概要について講義し、問答形式をとって、福祉の原理や根本問題などを考えさせた。(学生から好評を得た)
5)研修・セミナー等の講師		
①北部地区民生委員児童委員研修会	2000 年 2 月 23 日	「社会福祉事業法の改正と今後の社会福祉の動向」(講演、300 名)
②沖縄県精神保健福祉士養成研修会講師	2000 年 8 月 20 日	「社会福祉原論」
③ボランティア講演会講師	2000 年 10 月 20 日	「ボランティア活動のあり方について」(講演)、北谷町社会福祉協議会)
④ホームヘルパー養成研修会講師	2001 年 1 月 9 日	「福祉理念とケアサービス」「サービス提供の基本視点」(2 科目を講義、本部町社会福祉協議会)
⑤社会事業団研修会講師	2002 年 10 月 24 日	「選ばれる施設を目指して」(基調講演)
⑥シンポジウム、コーディネーター	2003 年 12 月 12 日	「自立・共生型住まいを考える」(シンポジウム、さわやか福祉財団)
⑦シンポジウム、コーディネーター)	2004 年 12 月 12 日	「ユニットケア全国実践者セミナー in 沖縄」(シンポジウム)
⑧公開講演会講師	2004 年 1 月 12 日	「高齢者を取りまく状況と福祉の課題」(講演、沖縄県いきいきふれあい財団)
⑨長寿大学講師	2005 年 10 月 ～2008 年 1 月	「高齢社会と福祉」(講義)沖縄県かりゆし長寿大学校
10 雇用管理改善推進フォーラム講師	2006 年 11 月 18 日	「介護に必要な福祉の視点」(講演)平成 18 年度雇用管理改善推進フォーラム

11 沖縄女性研究者の会研究フォーラム講師	2007年2月17日	「家庭生活における男と女」(講演、沖縄女性研究者の会)
12 宜野湾市男女参画フォーラム講師	2008年2月28日	「高齢社会と家庭のあり方」(基調講演、宜野湾市)
13 ソーシャルワーク養成講座講師	2007年2月 ～2009年2月	講義「社会福祉とソーシャルワーク」 ソーシャルワーク養成講座の一科目(主催:日本ソーシャルワーカー協会・沖縄ソーシャルワーカー共催)
14 アジア太平洋ソーシャルワーカー会議(パネル発表)	2011年7月20日	「Conflicts of Between Old Community and New Comer」(国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋会議)

## 研究業績等

### 【主要論文及び主要著書】

- ①「地域における福祉・健康等定住化促進関連施設計画」2005・3(責任編集)
- ②「日本国憲法の草案策定過程における『福祉』」(単)2007・12「沖縄の地域福祉研究第5号」
- ③「日本国憲法策定段階における『社会福祉』の意味と位置づけ」(単)2008・3「地域文化論叢第10号」

### 研究分野

社会福祉学

### 【Eメール・ホームページ等】

平成23年10月8日現在